



## 友垣よ

練馬区立石神井西中学校だより  
令和六年十一月十一日 第八号(第十九号)  
校長 井上 貴 推

# 自分らしい進路選択を目指そう！

十一月は、霜月・霜降月とも呼ばれます。本格的な冬を迎え、文字通り霜が降りる月です。冬は明るく眩しい春を迎えるため準備をする季節でもあります。中学生とは、大人になるための準備期間でもあり、季節に準備すると冬に当たりそうな気もしますね。輝く未来へ向け、中学校生活もこの冬も楽しく、充実した期間にしたいものです。

さて、期末考査も終え、3年生はいよいよ進路選択が目前の時期になりました。一人一人が自分らしい進路を選択するために大切だと思っていることを伝えようと思います。

### 1 社会人に聞きました

もうだいぶ前になりますが、社会人へのアンケートで、「今、就いている職業を最初に意識したのはいつ頃ですか」という項目がありました。その答えの一位は「中学生の頃」でした。結構「職場体験で経験した」という回答もあったように思います。他にも「本で読んだ」「テレビで見た」や「街で見かけた」なんていう答えもありました。いずれにしても、かなり多くの人が現実に関心した内容について、中学生のときに意識したという結果は重要であり、いま、何気なく過ごしている日常に、これからの皆さんの一生に関わる出会いもあるのかもしれない…大切な何かは案外身近で、すでに出会っているのかもしれないですね。

### 2 進路は人それぞれで決まりはない

そんなことを考えながら最近読んだ本の中に「中学生一〇〇〇人の進路」というページがありました。それは平成二十一年の3月に卒業

した全国の中学生を一〇〇〇人としたときに、何人がどういう進路をたどったのかを調べた数値です。それによると、高校進学者は九七〇人、高等専門学校進学者は九人、就職者は五人、その他は一六人でした。もう少し見ていくと、高校に進学した九七〇人のうち、高校を卒業した者は八九六人で、その後は四年制大学進学者四一三人をはじめ短期大学、専門学校、職業能力開発施設や就職等さまざまな進路に広がっていきます。私が印象的だったのは、自分の周囲の状況だけで見れば、みんな同じような進路選択(中学校でいえば高校進学)だったとしても、広い視野で捉えてみると、数値として多い少ないの違いはあるものの、実に人それぞれに多様な進路を選択していることが改めて認識できました。進路決定とは、自分の将来をどう考えるかによって違ってくるのが当たり前で、こうしなければならぬというような決まりはないのだなと思いました。

### 3 自分らしい進路選択をするために

学校では、進路指導を生徒がどの高校に挑戦したらよいのかに終始することなく、それぞれの生徒が卒業後にどのような暮らしを望んでいるか、そして「希望」を実現するにはどのような進路があり得るのか…こういった問いに生徒が向き合う機会を設け、個々の適性を踏まえて必要な指導や支援を行うことが、進路指導という言葉に込められていることを忘れずに計画を立てています。

そこで大切になってくるのが、生徒一人一人が「希望」を持つことです。「希望」があると、「これをやってみよう」とか、「これができようになりたい」と思うようになります。それが勉強や部活動につながり、日々の努力もできるようなものになるでしょう。「希望」が見つかるチャレンジしたり、新しいことを学ぼうとしたりする意欲も湧いてくると思います。

皆さんが「希望」を見つけ、自分らしい進路選択をするために、石神井西中はこれからも支援し続けます！